

## 平成 23 年（2011 年）3 月期第 2 四半期決算概要

2010 年 10 月 29 日

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 博明  
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
 : (TEL) (06) 7635-1636

### (1) 当第 2 四半期の連結経営成績に関する定性的情報

当第 2 四半期累計期間（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）の当社経営環境は、中国、韓国、台湾を中心とするアジア新興国の経済拡大が牽引役となり、電気・電子、化学製品、自動車関連、環境関連の事業分野が堅調に拡大した上、衣料分野も在庫調整の一巡により受注が急速に拡大いたしました。

その一方、米欧市場の停滞、中国市場の成長鈍化、円高の進行が特に夏場以降強まり、先行き予断を許さない状況にも見舞われました。

このような事業環境の中、アジア圏におけるビジネス拡大、高付加価値品へのシフト等収益向上策に積極的に取組み、売上高 5 7 8 億 5 千 6 百万円（前年同期比 8 0 億 7 千 3 百万円、1 6.2%の増収）、営業利益は 1 5 億 6 百万円（同 7 億 6 千万円、1 0 1.9%の増益）、経常利益は 1 5 億 8 百万円（同 7 億 9 千万円、1 1 0.2%の増益）、四半期純利益は 8 億 9 千 1 百万円（同 5 億 1 千 3 百万円、1 3 5.5%の増益）となりました。

#### 【連結業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (2010/4～2010/9)		前第2四半期累計期間 (2009/4～2009/9)		増減額	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	57,856	-	49,783	-	+8,073	+16.2%
営業利益	1,506	2.6%	746	1.5%	+760	+101.9%
経常利益	1,508	2.6%	717	1.4%	+790	+110.2%
四半期純利益	891	1.5%	378	0.8%	+513	+135.5%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の 1 社であり、同社の連結累計期間は平成 22 年 1 月 1 日から同 6 月 30 日となっています。

#### 【単体業績】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (2010/4～2010/9)		前第2四半期累計期間 (2009/4～2009/9)		増減額	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	57,543	-	49,311	-	+8,231	+16.7%
営業利益	1,479	2.6%	710	1.4%	+769	+108.3%
経常利益	1,490	2.6%	689	1.4%	+801	+116.3%
四半期純利益	877	1.5%	355	0.7%	+521	+146.7%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

## (2) 営業の概況

### <繊維関連> (前年同期並み、増益)

売上高は205億円。前年同期並。

#### (衣料分野)

- スポーツ分野は、アパレル向け縫製品の販売が順調に拡大し、学校体育衣料向けでの在庫調整の影響を吸収し、微増収となりました。
- ユニフォーム分野は、サービス向けが有力アパレルでの新素材の採用により取引が拡大しました。また、ワーキング向けもアパレルでの在庫調整の進展に加え、生地受注が急速に回復しましたことから、全体として大幅増収となりました。
- 婦人分野は、高発色・高質感ポリエステル素材「エルモザ」、杢素材「ソルビア」が順調に拡大し、増収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、店頭での消費回復に伴い生地受注が増加しました。また、新素材の拡販効果も加わり、増収となりました。
- 輸出は、欧州向けは「エルモザ」、「ソルビア」の販売拡大が為替影響を吸収し、増収となりました。また、中東向けも為替影響を受けましたが、新素材の投入効果により前年並みを確保しました。

以上の結果、衣料分野は増収、増益となりました。

#### (資材分野)

- メディカル関連資材やスポーツ靴用資材は、好調な需要を背景に販売が拡大し、増収となりました。
- 産業資材は、自動車用資材のブレーキホースが国内外で順調に拡大しました。また、高強度繊維「ベクトラン」、「クラロンK-II」が中国、ベトナム市場を中心に拡大し、増収となりました。
- 人工皮革「クラリーノ」は、靴用途が前年並みに推移しましたが、衣料・軽工品用途は市況の低迷、在庫調整の影響により苦戦し、全体として減収となりました。
- 不織布製品は、インフルエンザによるマスク特需がなくなる等により、減収となりました。

以上の結果、資材分野は、減収、増益となりました。

### <樹脂・化学品・化成品関連> (増収、増益)

売上高は373億円。前年同期比83億円(28.7%)の増収。

- ポパールフィルムは、液晶関連需要の堅調な拡大を背景に販売が大きく伸長しました。また、水溶性用途も国内外で順調に拡大しました。また、ポパール樹脂は、国内需要の回復により、増収となりました。
- EVOH フィルムの「エパール」フィルムは、冷蔵庫用断熱板用途、アジア向け包材用途が順調に拡大しました他、壁紙用途が底堅く推移し、増収となりました。
- 溶剤等化学品関連は、需要の回復や顧客開拓により販売量を伸ばし、増収となりました。

- 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、LED 用反射材用途が LED-TV およびノート PC 向け採用増により販売量が大きく伸長し、増収となりました。
- 熱可塑性エラストマー「セプトン」は、中国・台湾向け輸出を中心に販売量が拡大し、増収となりました。
- メタアクリル関連は、LED-TV 用導光板をはじめとする光学製品向けペレット、シートの販売が大きく伸長し、建材向け人工大理石用途の苦戦をカバーし、全体として増収となりました。
- 環境関連資材は、半導体・電子業界の回復を背景に工業膜が順調に拡大しました。また、活性炭販売も堅調に推移し、増収となりました。

### (3) 年度連結業績予想(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

当社の販売状況は、アジア新興国を中心とした好調な需要を背景に順調に拡大しておりますが、米欧市場の停滞、中国市場の成長鈍化、円高の進行等、当社をとりまく経営環境は不透明さを増しています。

このような懸念材料がありますが、アジア市場での取組み強化、商材の高付加価値化への注力、効率経営の追求等の努力により、通期連結業績は下表の通り、売上高1,160億円、営業利益30億円に修正いたします。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表 (対前期比)	1,100 (+8.0%)	25 (+30.4%)	25 (+29.9%)	13 (+30.9%)
今回公表 (対前期比)	1,160 (+13.0%)	30 (+53.6%)	30 (+52.4%)	15 (+50.0%)

<注記>本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上